

■■■ 外国にルーツを持つ子どもに抱えさせている問題 ■■■

文部科学省の調査によると昨年5月の時点で全国の公立学校に在籍している外国人児童生徒数は、72,751人、兵庫県には4,623人が在籍しています。そのうち日本語指導が必要な外国人児童生徒は、643人（昨年9月調査）で、子どもの言語別ではベトナム語（184人）、中国語（159人）、ポルトガル語（78人）、タガログ語（56人）、スペイン語（50人）と続き、KFCの学習支援活動にベトナムや中国をルーツに持つ子どもが多いのが頷ける結果です。

外国にルーツを持つ子どもが直面している問題ですが、大別すると新しい言語（日本語）の習得、新しい社会（学校）や文化への適応、無理解や排除が生み出すアイデンティティ・自尊感情の喪失問題があると私は考えます。

1番目に挙げた日本語の習得は、日本に来た子どもが抱える大きな問題であることは容易に理解できますが、実は日本で生まれた子どもでも日本語の習得に壁がある場合があります。少し想像力を働かせてもらえれば判りますが、保護者の言語、家庭における使用言語が子ども、特に幼児期に及ぼす影響は非常に大きく、幼い子どもの言語発達と保護者（特に母親もしくは母親がわりの人）の言語は密接な関係を持っています。このように外国で育った子ども、保護者の言語が日本語でない子どもの場合、日本語習得に大きな壁があるため、日常生活での問題に加え、学校に入ってから学習に大きなハンディを負っています。

次に新しい社会（学校）や文化への適応ですが、とかく画一的な規定や慣習を持つ日本の学校において子どもは多くの問題に直面しています。KFCの研修会に来ていただいた講師の話ですが、川崎市でブラジル人の男の子が下着としていわゆるビキニ型のパンツをはいて学校に通学し、プールの着替え時間に同級生たちから「ママのパンツ」をはいていると囃されたという事例がありました。これはブラジルの下着文化が日本のなかでは「女物の下着」ととられ異質なモノが嘲笑の対象になった一つの典型事例だと思います。また学校への適応を教師が強いた名古屋の事例で、給食を食べられない子どもにこのまま給食を食べないと日本に馴れていかないと、先生が無理やりスプーンを子どもの口に突っ込んで歯が折れたというひどい事例もありました。逆に箸が使えない子どもが手で給食を食べることを担任教師が放置しているような事例もあります。

これら典型的な文化ギャップによる子どもの適応問題のほかに、在日コリアンの子どもも含め外国にルーツを持つ子どもたちのアイデンティティ形成に深刻な問題として名前の問題があります。常用漢字、ひらがなを使った「日本風」の名前を持たない外国にルーツを持つ子どもは「ガイジン」としてさまざまな嫌がらせを受けています。

神戸で実際にあった事例ですが、「金（キム）」という姓で通っている子どもに対し「キムチ」であるとか北朝鮮バッシング報道の影響を受けて、「キムジョンイル」、「テポドン」といった嫌がらせをする。また非常に悲しい事例ですが、KFCの学習支援の場で通称名（日本名）を学校で名乗っているベトナムの子どもが本名（民族名）で通っているベトナムの子どもに対し「ガイジン」と蔑視するような発言をした事例もあります。

このように単一民族感の強い学校文化の中で外国にルーツを持つ子どもは、自らの背景・文化の否定も含め傷つけられることが非常に多いです。最後の事例のようにその境遇から逃れるため多数者（日本人）側に同化し少数者を排除する側に廻るといった悲しい現象さえ見られます。

残念なことですが、外国にルーツを持つ子どもにも廻りにいる多数の日本人の子どもにもこのような「ガイジン」、外の間人という意識を払拭し、多様な文化背景を有するカリキュラムの整備は、一部の教育現場での取り組みを除いて存在していないのが現状です。

私たちが考えなければいけないことは、このような状況は外国にルーツを持つ子ども自らが選択した結果ではないということです。子どもには生活する環境を選択することも変えることもできません。私たちの社会、大人たちが、外国にルーツを持つ子どもに抱えさせている問題なのです。

私たちは、外国にルーツをもつ子どもの定住化が避けられない事実であるという前提に立ち、この社会への関心・意欲と自信を持てる大人へ成長してもらうという視点をもっと持つ必要があります。そのためには、子どもの人権を保障するための学力支援、文化支援、経済支援を計画的に進めることが必要です。

生活していくために必要な仕事や資源を取得したり、人的ネットワークを築くためのスキルとしての学歴を考えると日本の場合、中学卒業資格では難しく高校卒業資格が求められています。

KFCでは、希望する高校への進学を大きな目標に外国にルーツを持つ子どもに教科学習中心の学習支援をしています。あえて「希望する」と書いたのは、子どもが経済的な状況などで希望する全日制（昼）の公立高校は、神戸の場合中学卒業者の6割程度、中学のレベルによっては5割強しか進学できず、学科成績の下位者は私立もしくは定時制（夜間）、通信制への進学になります。成績の下位に置かれる外国にルーツを持つ子どもは、経済的に苦しい中、無理をして私学に進学するか、定時制への進学しかない場合が多く、結果として高校中退率も上がるという悪循環に陥っています。

多くの中学生が、月謝を払い学習塾に通って高校進学に備えるのに比べ、経済力のない家庭が多い外国にルーツを持つ子どもは、学習塾にも通えず家庭の経済力が成績格差に拍車をかけるという実態です。日本語学習支援も含めた学力支援は不可欠な支援であり、渡日歴の短い子どもには推薦入試や特別入試制度の創設といった支援措置も検討される必要があります。

次に文化支援ですが、「日本文化」中心の学校のなかで「ガイジン」として周辺化されることは、幼年期・思春期の子どもに深い心の傷を与えています。文化を相対化し優劣をつけるのではなく尊重する心を育むためには、子どもに連なる文化を生活の場で取り上げることが必要です。

地域や学校で子どものルーツの文化をとりあげることが、子どもの安心感や自己肯定に繋がります。一方、ステレオタイプで文化を取り上げることによる問題もよく見られます。

政治的迫害から逃れてきた難民の子どもに対して、抑圧した国家の国旗を「あなたの国の国旗」と教えたり、国籍を見て少数民族の子どもに多数民族の文化をあてはめたりすることは、文化の尊重にならないのは明らかですが、教育現場ではよく見られます。

言語に関しても、外国にルーツを持つ子どもに対して「母語」教育を推奨する意見も多いですが、子どもに単なる言語文化の継承を求めるのは、十分な日本語学習支援も受けられず日本語の壁に阻まれ分からない授業を受けさせられている子どもの実態に合っていないことも多いです。文化支援は、個々の個性を尊重し自尊心を高めるために行うという少数者の視点を持ったものでなくてはなりません。

最後に経済支援ですが、日本で安定した生活を築くために必要な高等教育を受けるためには、授業料だけではなく、その前段階である学習塾や家庭教師の費用も含め教育コストが必要とされているのが現実です。

短期雇用や時給での就労に就く保護者が多い外国にルーツを持つ子どもの家庭にとって授業料や学習塾費用の負担は難しく、進学のを失う結果を生み出しています。授業料免除や奨学金の支給といった経済支援がなくては、これからも子どもの教育の機会を奪われていくでしょう。

外国にルーツを持つ子どもの家庭の場合、親類知人からの援助も一般的な教育援助や教育ローンの活用も孤立している状況や情報の入手、書類の申請などを考えると難しいのです。

今回、外国にルーツを持つ子どもの教育問題を長々と書きましたが、すべての問題は少し見方

を変えれば同じ社会で育っている日本人の子どもにも抱えさせている問題です。

まだおぼろげですが、「親は子どもに育ててもらう」、「大人は子どもとともに育つ」というある意味当たり前のことが、地域でできるような「共育」の場をKFCとして整備していければいいなと思うこの頃です。

■■■子どもの支援 大人の支援 ～9月13日の研修会に参加して■■■

今、私は時間の都合上、子どもたちへの学習支援はしていません。主に大人のベトナム人への日本語支援をしています。子育て中のお母さんやこれからママになる女性とよくペアになっています。

真陽小学校の杉本先生の話をお聞きしながら、「日本語」という面から大人の方を支援していくことは、学習を頑張っている子どもたちをも支えていることにもなるんだと強く思いました。日本語支援の場は、子どもたちのお父さん、お母さん方のことばの壁を少しでも低くし、また学校の先生と理解し合う力にも繋がっていることが分かりました。

日本語プロジェクトでは対象者は主に大人の方です。今まで、私は日本語支援の場と学習支援の場とを別々にとらえていたようです。今回の研修を通して、この二つをより広い視点でとらえることができました。研修会では主として学校現場の取り組みをお話しいただきましたが、私にとっては、今取り組んでいる週一回の日本語支援の意味をより一層深く考えるよい機会となりました。（宇野祐子）

■■■日本語プロジェクト■■■

◆秋祭り開催

10月28日(日) KFCの秋祭りが11時から始まり、雨にもかかわらず、学習者、支援者が40名ほど集まりました。

一番前のテーブルでは、ルーマニア、モルドバの方がシウバ（赤カブのポテトサラダ）、ジャガイモパン、キベリィ（ピーマン）等、そして、ザーマという鶏がらから取ったスープに野菜を入れたものに、サワークリームを入れて食べるものを作ってくれました。あっさりして、体が温まってヘルシーなスープでした。

他のテーブルにはベトナム料理のフォーボーガ（牛肉と鶏肉入りベトナムうどん）、チエー（ベトナムぜんさい）、サラダ、マーボー豆腐、唐揚げ、キムチ海苔巻き、たこ焼きとたくさんの食べ物が並び、和気あいあい、作り方を聞いたり、話したりして、美味しくいただきました。

いつも時間がなくて、教室ではあいさつ程度しか出来ないの、年1回でもこういう集まりは良い事だと思いました。

最後はビンゴゲームをして、商品を頂き、盛り上がり皆で後片付けをして、2時半ごろ解散しました。

お料理を作ってくくださった方々、ご苦労様でした。（後藤アユ子）

◆11月研修会～KJ法を使って

11月の研修会は、日本語ボランティア養成講座の最終日に参加する形で、「日本語ボランティアを経験して」というテーマでKJ法を使って行いました。

KJ法とは、参加者のアイデアや意見などを1枚ずつ小さなカードに書き込み、それらのカードの中から近い感じのするもの同士を集めてグループ化していき、それらを小グループから中グループ、大グループへと組み立てて図解していきます。こうした作業の中から、テーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出していこうとするものです。

今回は養成講座の参加者が実際に地域の支援団体に参加してみた後、以下の2つの質問に対して、感じたことや意見などを出し合いました。紙面の許す限り紹介します。

1. 始めるにあたってどんな不安がありますか。ありましたか。

①支援能力に関して

- ・自分の日本語が通じるかどうか（対面の不安）
- ・忍耐強く教えることが出来るだろうか
- ・自信がない
- ・学習者の期待にこたえられるのか

②教え方に関して

- ・時間がもつだろうか
- ・全く経験がないので、教え方、相手への接し方が心配
- ・自分自身、文法がよく分かってない
- ・質問に答えられるだろうか。答えられないときはどうしよう

③学習者に関して

- ・学習者との相性
- ・学習者に受け入れてもらえるか。どこの国の人に教えるのか、希望は聞いてもらえるのか

④学習レベルに関して

- ・どのくらい日本語を習得した人か
- ・媒介語が使えるかどうか
- ・全く日本語が通じない方にどうやって意味を伝えるのか

⑤継続することに関して

- ・ボランティアそのものを続けていけるか、嫌にならないか
- ・いきなり一人の人を長期にわたって教える事への不安

⑥支援団体・グループに関して

- ・会の運営体制、雰囲気、施設などを知りたい
- ・教室の雰囲気はどうか。相手先は自分をボランティアとして受け入れてくれるか
- ・他のボランティアの人とうまくやっていけるだろうか

⑦個人情報

- ・相手の人に電話番号は教えたくない

2.始めてからどうですか。どう思いましたか。

① 支援能力に関して

- ・日本語について知らないことが多い
- ・言葉を正確に伝えることは難しい
- ・どういう意味か説明に窮した
- ・漢字については自分も改めて一緒に学び直す機会にする
- ・やはり文法の知識は必要
- ・満足してもらえる学習時間にしたい
- ・まず楽しく会話をしようと思ってやっている

・準備と勉強(自分が勉強するのに) 時間がかかる

②教え方に関して

- ・日本語を分かりやすく効率よく教えるためには時間をかけて準備することが大切
- ・いかに学習者に興味を持たせるか
- ・日本語を教えるのは結構楽しい
- ・一人と二人のときの学習方法の工夫は？
- ・モチベーションを維持してもらえるようにどんなことができるか
- ・文法を習いたいと言ったから1つについてたくさん活用を言うと「わからない」と
- ・想像していなかったような質問があって焦った
- ・臨機応変な対応が必要だが難しい
- ・テキストにそって進めていても実際に会話ができないと意味がないとしばしば思う
- ・もっと先に進むと文法的に難しくなるのではないか。ついていけるか
- ・助詞の使い方の難しさ

③学習者に関して

- ・相手が満足しているか(今度聞いてみようと思っています)
- ・複数の学習者を受け持つ時は学習者同士の相性もあるのでは
- ・今担当している人は11月初めに帰国予定なので目標がたてにくい

④学習レベルに関して

- ・全く初級の人にどのくらい母国語(英語)を使ってもいいか悩んだ
- ・色々なレベルの学習者を教える難しさ
- ・学習者によって吸収力が違いなかなか分かってくれなかったら教える方があせってしまいストレスになりそう
- ・周りの人からやアニメから少しずつ覚えている人なので何を教えるべきかがよく分からない。これ分かるの?ってびっくりしたり、知ってるだろうと思ったら知らなかったり

⑤継続することに関して

- ・長く続けたい

⑥支援団体・グループに関して

- ・教材等について相談できる人が必要
- ・他の支援者の方からもいろいろ学びたい
- ・いきなり「この人を教えて」と言われた時は準備もなくとまどった
- ・わからない時尋ねる人がおり安心した(コーディネーターやボランティア同士で)
- ・会の運営基盤の脆弱性(予算、人、支援体制)

⑧喜び・やりがい

- ・国籍の違いは余り気にならず打ち解けられた
- ・理解したよと笑顔を見せてくれるとうれしい
- ・大変だけど楽しい
- ・学習者が少しずつ日本語が上手になって会話できるのがうれしい
- ・相手国について知らないことが多く異文化体験できてとても楽しい
- ・授業で教えた文型を使って会話ができた時は本当に嬉しい
- ・ボランティアとして人のために役立っていると思うと嬉しく思う
- ・日本語支援をしながら人間支援をしている気がする
- ・教える→伝える→交流に変化
- ・自分自身も向上している気がする

- ・生徒さんの学習意欲に感心する
- ・街の中で顔見知りの学習者と出会うことがあって楽しい

⑨ボランティアのわりきり、範囲

- ・学習以外のことを相談されたら？
- ・思っていたより大変だ。責任を感じる
- ・講座受講の時のようにはいかないが、これでいいのでは、と思えるようになった
- ・休む時にとても悪いなあと思うがわりきって考えるようにしている

⑩異文化（プラス・マイナス）

- ・母国の話題（家族、食べ物、文化の違い）に近づけた
- ・相手の国の文化を知り楽しい
- ・時間の観念が違う、お国柄か遅刻してきても平気
- ・日本のマナーをどのくらい教えたらよいか
- ・時間の感覚が違ったりキャンセルのマナーなどに戸惑った
- ・中国と日本の共通点とか違う点とかを知り異文化交流が面白い
- ・日本の習慣、伝統に興味を持ってくれる
- ・色々な国の方と知り合えてとても楽しい
- ・相手の方の国の話をきく楽しさ
- ・途中で前触れもなくやめられると自責の念を持つ（しばらくだけど）
- ・外国に暮らす事のたいへんさを感じる
- ・日本の習慣や文化についても正しく知っておかないと

⑪二ーズ

- ・相手が何が分からないかがよく分からない
- ・学習者によって必要としていることが違う
- ・学習方法はどうしたらいいのか

⑫教材

- ・本中心ではなく絵教材、補助教材を多数使用して効果を得た
- ・教材作りに時間がかかりすぎる
- ・教材を上手に使うにはまだまだ道のりが遠い
- ・毎回新しい教材を発見
- ・ホワイトボードはとても役に立つことが分かった
- ・ノートや裏紙に書いて学習事項を残す

このような試みは初めてでしたが色々な観点からの意見が出ました。日本語を説明することの難しさや相手の文化をじかに見聞きすることの面白さが改めてクローズアップされたでしょうか。目から鱗の意見にも出会えて大変有意義でした。これらを足掛かりに、学習環境や支援活動環境の改善に取り組んでいきたいと思えます。

（奥 優伽子）

■■■ 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆学習支援に関わって

私は、木曜日の16時から子ども学習支援に参加させていただいています。対象は小学生です。無邪気でとにかく元気一杯の子どもたち。勉強中も周りの子に話しかけたり、机の下で、足を蹴りあったりと一時間半ほどのKFCは賑やかです。

私が担当するのは主に低学年の子どもですが、高学年の子どもたちの時もあります。マンツーマンの時があれば、二人一緒に担当する時もあります。学校の宿題の国語、算数が中心です。そこで感じることは当然のことですが、日本語が十分でない点です。会話では、不自由さは感じない。漢字の読み書きもほぼできる場合でも、文章になると理解が難しい。算数は計算はできるが、文章題は不得手という具合です。低学年の場合は、褒めたり、なだめたりしながら、進んだり、戻ったりの繰り返しです。彼らなりに頑張ってくれます。問題は高学年の子です。特に途中から日本の学校に通うようになった子です。低学年で習得すべき知識がないので、当然のことながら、宿題をこなすのも大変です。時間がかかります。「難しい。分からない。面倒くさい」と投げ出しがちです。時間がないからと、答えのみを求めるようになってしまいます。「急がばまわれ」というように、宿題より、低学年の学習から始めた方がと、私個人では思うのですが、時には、遅刻ということもあったりして、限られた時間では宿題をこなすだけで精一杯というのが現状です。宿題の支援と同時に日本語の支援をすることの難しさを痛感しています。

何といっても、彼らには「若さ」という力があります。一つ一つクリアしていってくれていると思っています。来ている子は皆、それぞれに可愛い子どもたちです。力不足の私ですが、ベテランの学習支援されている方たちに教えていただきながら、少しでも役に立てるよう、頑張りたいと思っています。(北尾久枝)

週に一回火曜日の16時にKFCに通っています。日によって少しざわつきがあったり、静かに集中して勉強をしていたりと変化があります。また、子どものやる気によって宿題が全部出来る時、勉強よりも話をしている方が長い時もあります。

私がいま一緒に勉強している中国人の6年生の女の子は、よく「わかりません」と言います。説明を上手にできない時が多く、悔しいなと毎回感じます。でも、分からなかった問題が出来て、理解できたときは嬉しく、私もやる気も出てきます。

初めの時は、静かであり話をしてくれなかったのが、分からないことはちゃんと言ってくれるようになり、学校のことについて自分から話をしてくれるようになりました。最近では、「目標がある」という話をしてくれました。目標に向けてがんばろうとやる気が満々です。日本語・学校の勉強はもちろん、母国語を忘れないために休憩中や勉強が終わった後に教えてくれます。これから、疑問に思ったことを少しでも理解してもらえるように、もっと説明をうまくできるようになりたいと思っています。それに、子どもたちの目標の手伝いを少しでも力添えができるように頑張りたいと感じます。(谷口恵子)

今年の1月から学習支援に参加させていただいています。

中学時代の勉強内容など、はるか遠い記憶ということもあり、質問に自信を持って答えることが出来ないことも多々ありますが、生徒さんと一緒に考えながら学んでおります。

両親が外国にルーツを持ち、異文化である日本で暮らしていくことは、子どもにとってとても大変なことだと感じる事が多くあります。時には、勉強から脱線して、学校での出来事や両親の話などを話すこともしばしばあります。子どもにとって、勉強する場所だけでなく、日頃感じるストレスを発散できる場所でもあると思います。

学習支援については、本当に難しいと日々感じております。噛み砕いて説明しているつもりでも、説明した際に用いた単語を子どもたちが分からずかえって混乱させてしまうこともあります。

中学時代は、日本人、外国人に関わらず、勉強以外に関心が向く時ではありますが、目的を持ち勉強する姿勢を持って欲しいものです。そして、目指す高校に行って、いろんな友達を作り多く

の経験をし、楽しい学生生活を送ってほしいと思っています。また、勉強だけでなく、子どもたちの安らぎの場であるKFCに少しでもお手伝いできたらいいなと思っています。（新田英理子）

◆保護者へのアンケート

今回、初めて学習支援を受けている小・中学生の保護者のご協力を得て、アンケートで、それぞれの項目に答えていただきましたので、ご紹介します。

1.KFCの満足度はいかがですか。

満足5名、ほぼ満足5名、ふつう1名、
少し不満0名、不満0名

→そう思われる理由は。

〈満足と答えられた方〉

- ・色んな機会を設けてくれて勉強できる
- ・子どもが学習面で良くなってきている
- ・熱心に教えてくれる。子どもが非常に気に入っている。（同世代の）同じような背景を持った子どもがいる
- ・勉強に来ている子どもたちや支援者らと過ごすことでたくさんの知識を得、いろいろな経験ができる
- ・真面目に責任を持ってしてもらえる

〈ほぼ満足と答えられた方〉

- ・子どもがKFCに行きたいとよく言う。日本語を勉強したいという気持ちもはっきり分かってきた。でも勉強に関して詳しい内容はよく知らないし、適当かどうか分からない
- ・KFCに来たら、子どもが楽しい気分になる。先生たちが教える時、丁寧で優しいので、うれしく思っているし、感謝しています

2.何に力を入れて欲しいですか。

- ・学習（日本語3名、
教科（国語3名、算数（数学）2名、
理科0名、社会0名、英語0名）
- ・学習態度（落ち着いて席に座るなど）1名
- ・協調性を培う 2名
- ・その他
（・子どもと一緒に遊ぶ活動を行って欲しい、・全ての内容に力を入れて欲しい）2名

→どうしてそう思われますか。

- ・国語が弱いから力を入れて欲しい
- ・子どものレベルに合わせた内容のものを教えて欲しい
- ・両親とも働いている場合が多いので、子どもの悩みが理解できないことも多い。同じように悩んでいる子どもを集めて交流させてもらえれば
- ・もっと日本の生活に慣れさせたい
- ・日本に来て、まだ一年未満なので、日本語や日本のことをたくさん学ばせたい
- ・KFCでいろいろな知識を学んで欲しい。子どもは理解力が弱く、あまり勉強が好きではないので、気にかけて欲しい

3.子どもの進路をどうお考えですか

- ・ 中学卒業後、就職 0名
- ・ 高校進学
(公立2名、私立0名、よくわからない0名)
- ・ 大学進学 9名

4.子どもに将来どういうふうに成長してもらいたいですか。

- ・ いろいろな知識を得て、社会で役立つ人になって欲しい
- ・ 公立高校に行き、卒業後は社会のために多くのことをしてほしい
- ・ 社会に必要とされる人になって欲しい
- ・ 親孝行で、社会の一員としていい国民になってほしい
- ・ 大学に入り自分の好きな仕事をして、普通の人間の一人としても成長してもらいたい。自分の楽しい生活ができれば、一番うれしい
- ・ 自分の得意とするものを伸ばして生き生きとした人生を送ってもらいたい
- ・ 日本と中国を結ぶ仕事をしてほしい
- ・ 元気に成長して欲しい
- ・ 頭が賢い大人になってもらいたい
- ・ 勉強を頑張って優れた人になって欲しい。
- ・ 将来国のためになることをして欲しい。

5. その他、子どもや学校のことです不安なこと、わからないことがありますか。

- ・ 子どもがまだ小さいので、私がいろいろ教えているが仕事があつてなかなかできないので、KFCでもっと教えてほしい
- ・ 心から同世代の友達が欲しい。学校の子どもと付き合うことに不安がある。いじめ問題、特に無視されていないか、すごく心配である
- ・ 受け入れてくださる学校が見つからないこと。同世代の子どもと勉強する環境を与えてやれないこと
- ・ いじめられたり、けんかをしたりした時、外国人でも日本人でも同じように公平な目で見て、判断してもらえたらうれしい
- ・ 理解力が弱く、勉強があまりできないので、将来のことを心配している

今回アンケートを配布したのは19家庭で、そのうち10家庭(子ども11名分)から回答をいただきました。

子どもが学校でいじめられていないかと心配する保護者が複数おられたことや、子どもにいろいろ教えてあげたいけどできない保護者のジレンマを知ることができました。

KFCで勉強させていることや、返信いただいた家庭が特に子どもの教育に熱心な家庭ということもあるのか、大学進学を望まれる保護者が多いのには少し驚きもありました。高校進学率が日本人と比べるとまだまだ低いという現状があることを考えると、まずは高校へ行ってもらうことが目標となりますが、保護者がKFCへ期待することや保護者が望む子どもの将来像を念頭に入れながら、支援していきたいと思えます。(志岐良子)

◆9月23日 ハナの会 訪問を終えて

今回は、敬老の日にあわせて訪問し交流したかったのですが、私たちの予定が合わず一週あとの9月23日（祝）の訪問になりました。毎回訪問前に感じるのですが、私たちを迎えてくれるあのやさしい笑顔を見られると思うと直接会ってハルモニたちと話すことが何より楽しみです。ハルモニたちも在日コリアン青年と交流することを楽しみにしてくれていました。訪問の際、私たちからは、ここ最近の訪問では恒例の手品とノレ（歌）の披露をさせていただきました。いろいろな手品を披露させていただきましたが、特にお礼が増える手品にはお礼が増えるたびに「こりゃええーわ、働かんでええ。もっと出してーな」と上機嫌でした。しかし、簡単な手品もなかにはあって、ハルモニに見破られ笑いが起きる場面もあり、手品を見るハルモニたちの目が厳しくなっていることも感じました。「次回からはもう少し工夫して行えたら」と手品担当者は今から意気込んでいます。

手品のあと、ノレを披露しましたが、ハルモニのひと声でいつのまにかハルモニとKEY側で交互に一人一曲ずつみんなの前で披露するカラオケ大会に。若い僕たちよりも大きな声で歌うハルモニや高いきれいな声を聞かせてくれるハルモニもいて、驚きました。

その後、テーブルをハルモニとKEYメンバーで囲んでの交流会。お菓子を食べながら、ハナの会での出来事や手品やノレの話題で思い思いの話で盛り上がっていました。私が参加したテーブルでは楽しい話ばかりではなくハルモニが寂しい、不安な声も聞かせてくれました。

今、ハナの会に来ているハルモニの多くは一人暮らしが多く、また震災の影響で新長田駅から離れて暮らしている方が多いです。その一人暮らしがとても不安だと話していました。あるハルモニは一人暮らしのためお風呂場で転んで起き上がれなくなっても誰にも気づかれず、一人で起き上がって助けを呼んだそうです。その出来事を聞いたハルモニはとても不安になったそうです。「一人でいると誰も訪ねてこない。毎日テレビとにらめっこで口数も減って出かける気力もなくなってくる」と話していました。

在日一世として朝鮮半島から日本に来てたくさんの苦労を重ねてきたハルモニたち、今なお不安がつのり気を休めることは出来ないでいます。それでも週に何度かハナの会に来て同じルーツを持つハルモニたちと一緒に食事をしたり、歌を歌ったり、話をしたりすることが楽しいし、ハナの会の存在がありがたいと話されていました。

KEYのメンバーはハルモニとの交流を楽しみにしています。自分に出来る事があるんじゃないかと手品や訪問の準備に関わっています。これからも継続して訪問を続けハルモニたちに出来ることを考えつつ、ハルモニたちが応援してくれる言葉を大切にまた会えるのを楽しみにしています。（KEY尼崎 朴章剛）

◆秋の遠足 in しあわせの村！！10月21～22日

10月21日（火）

参加者：利用者14名、職員6名

秋の暖かな日差しの中、広い芝生の見わたせる場所にブルーシートの上に輪になって座り、しばし色づき始めた木々や心地よい風を楽しみました。色とりどりの美味しいお弁当と「チョレギ」で大満足のランチタイム！を終え・・・

宴もたけなわとなり、チャングのリズムの響く中、ハルモニたちの歌と踊りで楽しく午後のひと時を過ごしました。

しあわせいっぱい！！胸いっぱい！！Sさんのいつもの一言を思い出す秋の遠足となりました。

(ハナの会スタッフ 山田文乃)

10月22日(水)

参加者：利用者11名、職員6名、
ボランティア2名

天気予報では午後の遅い時刻から雨が降ることなので「大丈夫！」と心に思い出発！ところが、昨日と同じ場所に到着するとくもり空の上に冷たい風、おまけに早々の雨粒が……。 「誰ですか～雨オンナは～！」などと笑いつつ、せっかく来たんだから楽しもうと、シートを敷いて場所づくり。体を寄せ合い暖を取りつつお弁当を広げました。送迎の車2台を風よけに風上に停めて、雨にも負けず風にも負けず、しっかり歌や踊りも楽しみました。が、さすがに雨が本格的に降り出したので、建物の中に避難。暖かい休憩所でソファに座り、準備していったコーヒーを飲んで早めの2時半に帰路につきました。

利用者さんの顔ぶれも違えば、天候も大違いの二日間でしたが、それぞれに思い出深い楽しい一日でした。みなさま、お疲れ様でした！（ハナの会スタッフ 朱良枝）

■■■ 今後の予定 ■■■

■ KFC研修会

12月13日(土) 13:30～16:00

「学習者自身が作成していく学習計画表 を考える
(意志ある学び、ポートフォリオ)」

於 デイサービスセンターハナの会

■ HIA日本語教育アドバイザー派遣事業

12月7日(日) 13:00～17:00

「言いたいことが話せるように」

澤田幸子(「日本語おしゃべりのたね」著者)

於 シューズプラザ4F 会議室

■ 子どもたちと秋の遠足

11月24日(月) 須磨離宮公園(予定)

■ 事務所大掃除

12月26日(金)

■ 年末年始のお休み

事務所

12月27日(土)～2008年1月4日(日)

デイサービスセンターハナの会

12月30日(火)～2008年1月4日(日)